

令和5年度 調布市立調布中学校 学校経営計画（学校長 梶山 剛史）

学校の教育目標	
◎自ら学び深く考えよう ○身体を鍛えたくましく生きよう ○礼儀正しく思いやりの心をもとう ○勤労を重んじ進んで奉仕しよう	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
徳・知・体の調和のとれた成長と、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指して ↓ 「皆の笑顔が輝く、活気と潤いのある学校」←「かかわりを大切に」 メッセージ 「生徒のびのび、保護者安心、地域自慢、教職員いきいき」 ↑ 【教育目標を達成するための視点と具体的方策】 ◎今年度の重点（一部抜粋） 「分かる・できる喜びが味わえる学校」 ◎主体的問題（発見）解決能力の育成…主体的・対話的で深い学び ◎特別支援教育の充実 「笑顔の挨拶と思いやりあふれる学校」 ◎人とのかかわりから自分も相手も大切に（人権を尊重、いじめを許さない） ◎環境による教育 「様々な人とのかかわりを深める学校」 ◎役割意識と一人一人の活躍の場所（居場所、絆づくり） ◎生徒会活動等の充実（社会性育成） 「自らの役割を意識しチームで動く学校」 ◎「(全職員) みんなで(全生徒) みんなを」育てていく ◎保護者の信頼に応える学年(学級) 経営	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	現状：全体的には、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。生徒の主体性も育ってきている。 課題：コロナ禍で培った経験や工夫を生かした、生徒一人一人が輝き、活躍できる場面のより一層の創出。
中期的な経営目標	
① 人権尊重教育の推進と豊かな心の醸成 (徳)	② 確かな学力定着に向けた教育の推進 (知)
③ 心身の健康を保持続けていく態度の育成 (体)	④ 特別支援教育の充実
⑤ 保護者・地域と連携した信頼される学校の推進	⑥ 地域学校協働本部と連携した教育活動の充実

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 「命を大切にする」取組を行う。	① 全教科でタブレット端末等を活用した授業を実施し、生徒の学ぶ意欲を高める。	① 体育の授業を柱に、運動についての意欲を高める。また、昼休みの校庭利用を増やす取組を行う。
② 毎月いじめアンケートを行う。	② 全教科で校内研究を柱に、深い学びを実現するための授業改善を継続する。また、生徒の「リーダーシップ」「論理的思考力」「コミュニケーション」等を伸ばす取組を実施する。	② 食物アレルギー研修を計画的に行い、職員の意識を高める。学校全体で、日々の確認をルーティン化し徹底して行う。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 生徒アンケートで「いじめ防止の取組」について、肯定的評価を85%以上にする。	① 生徒アンケートで「主体的に学習に取り組んでいる」の肯定的評価を80%以上にする。	① 生徒アンケートで「体力の向上に努めている」の肯定的評価を80%以上にする。委員会活動でボールの貸出等を継続して行う。
② 生徒アンケートで「命の大切さを学ぶ取組」について、肯定的評価を85%以上にする。	② ショート・ディスカッションを定期的実施する。研究授業を年2回以上実施する。	② ヒヤリハット事例を含め、食物アレルギー事故を未然に防ぐ。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 特別支援教育	5 保護者・地域との連携	6 地域学校協働本部との連携
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 特別支援教育部を柱に、特別支援教育の充実を図る。また、魅力ある学校づくりの取組を継続して行う。	① 健全育成会議や地域行事に可能な範囲で参加し、互いの顔が見える交流・関係づくりを行う。	① 生徒の幅広い検定機会の創出に向けて、連携を図る。生徒の多様な学びに充実に向けても、ボランティア募集を進めていく。
② ステップルームや取り出し授業を活用し、生徒一人一人に合った指導を行う。	② ホームページ、学校・学年だより等、広報活動の充実を図る。	② コミュニティ・スクール次年度実施に当たり、情報交換と準備を進めていく。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 特別支援教育の研修を年1回以上行う。魅力ある学校づくりアンケートの分析を学期に1回行い、学年・学級づくりに生かす。	① 管理職等の健全育成会議への参加、部活動や生徒の地域行事・市民大会への参加を可能な範囲で行う。	① 漢字検定・英語検定を行う。平常授業時の学習ボランティア等を継続して任用できる仕組みづくりを年度末までに作る。
② 学級復帰の生徒を増やし、30日以上長期欠席者数を減らす。	② 学校だよりは毎月、学年だよりは定期的に発行する。ホームページは適宜更新を行う。	② 学校関係者評価委員会等を活用して、年間3回以上情報交換と準備を行う。

人材育成・組織運営

○特別支援教育部が中心となり、生徒一人一人に合った誰にも優しい指導を行い、不登校対策・特別支援教育の充実にあたる。
 ○分掌・学年内での役割・仕事分担の明確化を進め、教職員が得意分野で力を発揮でき、力を伸ばせるように配置する。
 ○主幹教諭及び教務主任からなる経営会議を毎朝行い、学校の組織的な運営と主幹教諭の管理職としての資質向上を図る。
 ○主任教諭に、学年・学級・分掌主任・行事委員長・若手育成担当等を任せ、経営参画意識を高める。

